

通し 番号	事象	No	評価書 分類	大分類	小分類	審査 ガイド 項目 No.	評価書 ページ	質問事項	回答 終了日
1	共通	1	本冊	共通	—	3. (1) ⑧	30	その他の経年劣化事象(6事象以外の経年劣化事象)について、日常的な保守管理において時間経過に伴う特性変化に対応して劣化管理が確実に実施されているその他の経年劣化事象(△事象)と、そうでないその他の経年劣化事象(▲事象)に分類し、整理して提示すること。また、2F3の高経年化技術評価との考え方の違いを整理すること。	3/2
2	共通	2	本冊	共通	—	3. (1) ⑧	31	震災の影響を踏まえた経年劣化事象について①震災による通常環境からの乖離で進展する事象、②震災によって使用環境が変化し、進展した事象を整理して提示すること。	12/22
3	共通	3	別冊	共通	—	3. (1) ⑫	—	各機器において、震災影響の健全性評価を行っている事象について、(機器、部位、劣化事象、確認結果等を)整理して提示すること。	12/22

通し 番号	事象	No	評価書 分類	大分類	小分類	審査 ガイド 項目 No.	評価書 ページ	質問事項	回答 終了日
1	疲労	1	別冊	共通	共通	(1) ⑫	—	環境疲労評価を実施している機器・部位について、その評価手法((社)日本機械学会の「環境疲労評価手法」に規定される「係数倍法」、「簡易評価法」又は「詳細評価法」のいずれによるか)及び環境疲労評価による疲労累積係数と東北地方太平洋沖地震による疲労累積係数との合計値を提示すること。	11/16
2	疲労	2	別冊	共通	共通	(1) ⑫	—	ステンレス鋼クラッドにより接液しないことを理由に環境疲労評価を行っていない部位について、当該ステンレス鋼クラッドの健全性の確認の方法を提示すること。	11/30
3	疲労	3	別冊	容器	原子炉容器	(1) ⑫	2-23	原子炉容器の疲労評価に係る各評価対象部位の疲労累積係数(表2.3-5)の算出根拠(解析モデル、材料物性、最大評価点の選定、応力分類、Ke係数、環境評価パラメータを含む)を提示すること。	1/27
4	疲労	4	別冊	配管	ステンレス鋼配 管系	(1) ⑫	1-26	原子炉再循環系配管の疲労評価に係る各評価対象部位の疲労累積係数の算出根拠(解析モデル、材料物性、最大評価点の選定、応力分類、Ke係数、環境評価パラメータを含む)を提示すること。	1/27
5	疲労	5	別冊	弁	仕切弁	(1) ⑫	1-29	原子炉再循環系ポンプ出口弁、原子炉冷却材浄化系入口弁の疲労評価に係る各評価対象部位の疲労累積係数の算出根拠(解析モデル、材料物性、最大評価点の選定、応力分類、Ke係数、環境評価パラメータを含む)を提示すること。	3/2

通し番号	事象	No	評価書分類	大分類	小分類	審査ガイド項目	No.	評価書ページ	質問事項	回答終了日
1	中性子照射脆化	1	別冊	容器	原子炉容器	(1)	⑦	2-18	容器内面で照射量が $1.0 \times 10^{21} \text{ n/m}^2$ をこえる範囲及び炉心領域を示した図(板厚、クラッド厚さ、プレートナンバーやノズルの番号が分かるようにしたもの。)を提示すること。	11/16
2	中性子照射脆化	2	別冊	容器	原子炉容器	(1)	⑦	2-18	中性子照射脆化の質問事項No1で規定される範囲の母材及び溶接金属のミルシートを提示すること。	12/14
3	中性子照射脆化	3	別冊	容器	原子炉容器	(1)	⑦	2-18	監視試験片の化学成分を提示すること。	11/16
4	中性子照射脆化	4	別冊	容器	原子炉容器	(1)	⑫	2-20	監視試験片の配置、試験片数、各カプセルの取り出し時期、関連温度、中性子照射量、中性子束、及びリードファクターを提示すること。	12/14
5	中性子照射脆化	5	別冊	容器	原子炉容器	(1)	⑫	2-19	今まで取り出した監視試験片の取り出し時期(年月)とEFPYを対応させ、JEAC4201に記載されている取り出し時期との対応を提示すること。	11/16
6	中性子照射脆化	6	別冊	容器	原子炉容器	(1)	⑬	2-19	近傍にノズルのような大きな応力集中源がある場合にはその健全性の評価結果を示すこと。	11/16
7	中性子照射脆化	7	別冊	容器	原子炉容器	(1)	⑫	2-19	平成26年度末時点の関連温度及び上部棚吸収エネルギーの予測、破壊力学的検討によるマージン、胴の最低使用温度の計算過程を提示すること。	11/16
8	中性子照射脆化	8	別冊	容器	原子炉容器	(2)	⑬	2-22	至近の供用期間中検査における超音波探傷検査及び漏えい検査の要領及び結果を提示すること。	11/16

通し 番号	事象	No	評価書 分類	大分類	小分類	審査 ガイド 項目	No.	評価書 ページ	質問事項	回答 終了日
1	IASCC	1	本冊／別冊	炉内構造物	-	(1) ⑦	6,12,15, 18,21		各機器の通常運転時の温度を提示すること。	12/14
2	IASCC	2	別冊	炉内構造物	-	(1) ⑫	50		現時点までの運転時間(EFPY)、中性子照射量評価の内容(評価モデル、計算方法等の詳細を含む)及び評価の結果並びに中性子照射量が最大となる位置を提示すること。	12/14
3	IASCC	3	別冊	炉内構造物	上部格子板	(1) ⑫	50		上部格子板について、過去の損傷事例とその原因についての分析結果を提示すること。	11/2
4	IASCC	4	別冊	炉内構造物	-	(1) ⑫	51		これまでの運転中の冷却材の水質管理状況及び至近の実績を提示すること。	11/2
5	IASCC	5	別冊	炉内構造物	-	(1) ⑬	51		維持規格及び「欠陥の解釈」による点検のこれまでの実績(方法、頻度及び結果の記録を含む。)を提示すること。また、炉心シュラウド、制御棒案内管及び上部格子板についてのISI検査、制御棒案内管取り外し時、定期検査毎の炉心確認における確認結果の記録を提示すること。	12/14
6	IASCC	6	別冊	炉内構造物	炉心シュラウド	(1) ⑫	51		炉内構造物について、日本機械学会 発電用原子力設備規格 設計・建設規格 事例規格「応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮(NC-CC-002)」への対応状況を提示すること。	12/14
7	IASCC	7	別冊	炉内構造物	上部格子板	(1) ⑬	51		炉心確認時の上部格子板グリッドプレートの確認実績(確認方法、確認範囲、及び確認記録)を提示すること。	12/14
8	IASCC	8	別冊	炉内構造物	上部格子板	(1) ⑫	51		現時点における上部格子板の健全性及び冷温停止中におけるIASCCの発生又は進展の可能性の評価内容並びに冷温停止期間中の点検計画を提示すること。	12/14
9	IASCC	9	別冊	機械設備	制御棒	(1) ⑫	1-4		ボロンカーバイド型制御棒のローラ材料である高ニッケル合金(WPM)化学成分及び機械的性質を提示すること。	11/16
10	IASCC	10	別冊	機械設備	制御棒	(1) ⑬	1-10		熱中性子照射量により定めた運用基準の内容を提示すること。また、制御棒の取替え運用基準である $1.5 \times 10^{21} \text{ n/m}^2$ (熱中性子)到達時の高速中性子照射量を提示すること。	1/27
11	IASCC	11	別冊	機械設備	制御棒	(1) ⑬	1-12		取り出し制御棒の外観点検対象制御棒の選定方法、点検方法とその割れ視認性、並びに至近の点検結果を提示すること。	11/16
12	IASCC	12	別冊	機械設備	制御棒	(1) ⑬	1-10		ボロンカーバイド型制御棒の被覆管、タイロッド、上部ハンドルのローラ取付け部又はハンドルとシースとの溶接部にIASCCが発生しても制御棒の機能状問題とならない理由及びその根拠を提示すること。	P
13	IASCC	13	別冊	機械設備	制御棒	(1) ⑫	1-12		現時点における制御棒の健全性及び冷温停止中におけるIASCCの発生又は進展の可能性の評価内容を提示すること。	1/27

通し番号	事象	No	劣化技術評価書	大分類	小分類	運用ガイド項目 No.	評価書ページ	質問事項	回答終了日
1	2相ステンレス鋼の熱時効	1	別冊	共通	共通	(1) ⑪	—	ステンレス鋼鑄鋼製機器の熱時効劣化評価対象部品の抽出プロセスについて提示すること。	3/2
2	2相ステンレス鋼の熱時効	2	別冊	共通	共通	(1) ⑫	—	ステンレス鋼鑄鋼製機器の熱時効劣化評価対象部品の使用温度、フェライト量及び作用応力について提示すること。	1/27
3	2相ステンレス鋼の熱時効	3	別冊	共通	共通	(1) ⑬	—	高経年化対策上着目すべき経年劣化事象とした部品の現状保全の具体的内容及び製造時の検査内容について提示すること。	3/2
4	2相ステンレス鋼の熱時効	4	別冊	共通	共通	(1) ⑬	—	高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではない事象とした部品の現状保全の具体的内容及び製造時の検査内容について提示すること。	3/2
5	2相ステンレス鋼の熱時効	5	別冊	共通	共通	(1) ⑬	—	高経年化対策上着目すべき経年劣化事象とした部品について冷温停止状態が維持される場合にステンレス鋼鑄鋼の熱時効による経年劣化事象の発生及び進展が想定されないとする具体的内容を提示すること。	3/2

通し番号	事象	No	評価書分類	大分類	小分類	審査ガイド項目	評価書ページ	質問事項	回答終了日
1	絶縁低下	1	別冊	共通	共通	(1) ⑬	(現状保全記載ページ)	以下についての整理し提示すること。 ①冷温停止状態における点検頻度設定の基本的な考え方 ②代表機器の機器名、保全項目(点検手法)、判定基準、冷温停止時の点検頻度 ③断続的運転評価よりも冷温停止状態維持評価の方が使用条件が厳しくなる機器名及び点検頻度設定の考え方	11/16
2	絶縁低下	2	別冊	ポンプモータ	高圧ポンプモータ	(1) ⑦	1-2	「3台中2台が連続で残り1台は一時」と記載があるが、この内容について説明を提示すること。	11/2
3	絶縁低下	3	別冊	共通	共通	(1) ⑬	—	震災時に津波により浸水し交換・補修した電気設備(ケーブル、配電盤、電動機等)及びその設置場所を提示すること。	11/16
4	絶縁低下	4	別冊	共通	共通	(1) ⑬	—	震災時に津波により浸水し交換・補修した電気設備(ケーブル、配電盤、電動機等)の健全性の評価内容を提示すること。	11/16
5	絶縁低下	5	別冊	原子炉格納容器	電気ベネトレーション	(1) ⑬	3.3-10	「約30年使用して取り替えた電気ベネトレーションにおいても機能に影響を及ぼす腐食は確認されていない。」とあるが、交換した理由及び交換を選択する際の考え方を提示すること。	11/2
6	絶縁低下	6	別冊	弁	弁駆動装置 電動装置	(1) ③	8-6	高圧炉心スプレイ系圧力抑制室側吸込弁用駆動部(出力4.7~16kW)を重要度、口径、出力を選定の理由としているが、表2.1-4では出力16kWではなく、11kWの高圧炉心スプレイ系圧力抑制室側吸込弁用駆動部の使用条件を示している理由を提示すること。	11/2
7	絶縁低下	7	別冊	弁	弁駆動装置 電動装置	(1) ⑦	8-15	「原子炉格納容器内に設置されている残留熱除去系停止時冷却ライン内側隔離弁用駆動部については、震災時の通常運転時と異なる環境(温度・圧力)により、絶縁特性低下の進展傾向に影響を及ぼす可能性がある。」とあるが、通常運転時と異なる環境(温度・圧力・湿分)とはどのような状況であったか提示すること。	11/16
8	絶縁低下	8	別冊	計測制御設備	圧力計測装置等	(1) ⑬	1-87	信号変換処理部の特性変化について、「特性変化の主要因である電解コンデンサについては、大きな劣化をきたす前に取り替えている。」とある。取り替え時期の考え方を提示すること。	11/2
9	絶縁低下	9	別冊	ケーブル	低圧ケーブル	(1) ⑦	2-13	「原子炉格納容器内に布設されている難燃PNケーブルについては、震災時の通常運転時と異なる環境(温度・圧力)により、絶縁特性低下の進展傾向に影響を及ぼす可能性がある。」とあるが、通常運転時と異なる環境(温度・圧力・湿分)とはどのような状況であったか提示すること。	11/16
10	絶縁低下	10	別冊	ケーブル	共通	(1) ⑦	—	以下のケーブルについて、製造メーカ及び震災以外での交換実績を提示すること。 ①高圧難燃CVケーブル ②難燃FNケーブル ③難燃CVケーブル ④難燃FVケーブル ⑤難燃二重同軸ケーブル ⑥難燃六重同軸ケーブル ⑦難燃複合同軸ケーブル	12/14

通し 番号	事象	No	評価書 分類	大分類	小分類	審査 ガイド 項目	No.	評価書 ページ	質問事項	回答 終了日
1	共通	1	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	—	—	建築・土木関係設備(鉄骨構造物を含む)に係わる保安全管理の文書体系及び実施要領を提示すること。	11/2
2	共通	2	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	③	1～9	対象構造物について網羅的に抽出できていることをその選定過程を含め整理し提示すること。	11/2
3	腐食	3	別冊	鉄骨構造物	—	(1)	⑪	14	鉄骨構造物の目視点検結果及び補修計画、補修実績を提示すること。	11/16
4	アルカリ 骨材	4	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑪	14	平成17年に実施した促進膨張試験の方法及び結果を提示すること。	11/16
5	アルカリ 骨材	5	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑪	15	「アルカリ骨材反応に起因するひび割れは確認されていない。」とする根拠を提示すること。	11/16
6	凍結融解	6	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑪	15	「凍結融解に起因するひび割れは確認されていない。」とする根拠を提示すること。	11/16
7	中性化	7	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑨	16	平成27年に実施した環境測定(温度、相対湿度及び二酸化炭素濃度)の方法、位置及び結果を提示すること。	12/14
8	中性化	8	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑨	16	中性化の評価点を選定した過程を提示すること。	12/14
9	塩分浸透	9	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑨	17	塩分浸透の評価点を選定した過程を提示すること。	12/14
10	機械振動	10	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑨	17	機械振動の評価対象部位を選定した過程を提示すること。 プラント運転中及びプラント停止後に、比較的大きな振動を受ける機器の原動機出力を提示すること。	1/11
11	共通	11	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑬	21	すべての対象構築物について、運転開始以降に実施した破壊試験の方法、位置及び結果を提示すること。	11/16
12	熱	12	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑫	22	津波の影響により、サプレッションチェンバの水温が最高使用温度(104℃)を上回ったとするデータを提示すること。	11/2
13	熱	13	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑫	22	通常運転時の評価点における温度分布解析の方法、条件、過程及び結果を提示すること。	1/11
14	熱	14	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑫	23	サプレッションチェンバの水温上昇の影響を受けた部位における温度分布解析の方法、条件、過程及び結果を提示すること。	1/27
15	熱	15	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑫	23	原子炉ペDESTALの温度解析結果及び評価結果を提示すること。	1/11
16	熱	16	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑬	24	一次遮蔽コンクリートの目視点検結果及び補修計画、補修実績を提示すること。	1/11
17	放射線 照射	17	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑫	26	放射線照射量の解析方法、条件、過程及び結果を提示すること。	3/2
18	中性化	18	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑫	30	運転開始以降に実施した中性化深さの測定方法、位置及び結果を提示すること。	11/16
19	中性化	19	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑫	31	表2.3-2に示す調査時点及び運転開始後40年経過時点の中性化深さの推定値について、算定過程(推定式、条件、パラメータ)及び結果を提示すること。	12/14
20	中性化	20	別冊	コンクリート構造 物	—	(1)	⑬	32	中性化の評価点における目視点検結果及び補修計画、補修実績を提示すること。	12/14

通し番号	事象	No	評価書分類	大分類	小分類	審査ガイド項目 No.	評価書ページ	質問事項	回答終了日
21	塩分浸透	21	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	33	運転開始以降に実施した塩化物イオン濃度の測定方法、位置及び結果を提示すること。	11/16
22	塩分浸透	22	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	34	表2.3-3の鉄筋の腐食減量の算定過程(方法、条件、パラメータ)及び結果を提示すること。	1/11
23	塩分浸透	23	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	34	津波により浸水した部位の浸水状況(浸水場所、浸水高さ、浸水時間等)を提示すること。	11/16
24	塩分浸透	24	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	35	表2.3-4の鉄筋の腐食減量の算定過程(方法、条件、パラメータ)及び結果を提示すること。	1/11
25	塩分浸透	25	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑬	35	塩分浸透の評価点における目視点検結果及び補修計画、補修実績を提示すること。	1/11
26	機械振動	26	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	36	機械振動を日常的に監視している方法、判断基準及び結果を提示すること。	1/11
27	機械振動	27	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑬	36	タービン発電機架台及び比較的大きな振動を受ける機械基礎における目視点検結果及び補修計画、補修実績を提示すること。	1/11
28	熱 (遮蔽能力)	28	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	38	熱(遮蔽能力低下)の評価点における温度分布解析の方法、条件、過程及び結果を提示すること。	1/11
29	熱 (遮蔽能力)	29	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑬	38	放射線量の監視方法、判断基準及び結果を提示すること。	1/27

通し 番号	事象	No	評価書 分類	大分類	小分類	審査 ガイド 項目	No.	評価書 ページ	質問事項	回答 終了日
1	腐食(全面腐食)	1	別冊	熱交換器	U字管式	3. (1)	⑬	2-14	福島第二1号炉第20 回定期検査時(平成20 年度)における原子炉冷却材浄化系再生熱交換器の胴の肉厚測定の結果を提示すること。また、福島第二4号炉の原子炉冷却材浄化系再生熱交換器及び残留熱除去系熱交換器における現状保全の状況(至近の点検確認、又は漏えい確認等)を説明すること。	11/2
2	配管の腐食(流れ加速型腐食(FAC))	2	別冊	配管	炭素鋼配管	3. (1)	⑬	2-17, 2-33	給水系及び残留熱除去系の炭素鋼配管の腐食(流れ加速型腐食)について、社内規程における管理と日本機械学会の規格の内容を整理して説明すること。また、上記の系統配管で残存寿命(現時点からtsrに達するまでの期間)が最も小さい系統配管の点検記録を提示すること。	12/22
3	中性子照射による 靱性低下	3	別冊	炉内構造物	炉内構造物	3. (1)	⑬	34	炉心シュラウドの第13 回定期検査時(平成17 年度)及び第15 回定期検査時(平成20 年度)のひび除去部の点検記録を提示すること。また、炉心シュラウド、上部格子板、炉心支持板、燃料支持金具(中央・周辺)及び制御棒案内管について、水中テレビカメラによる目視点検の実施状況又は実施計画を説明すること。さらに、他プラントでの同部位の点検実績等があれば、提示すること。	11/2
4	腐食(全面腐食)	4	別冊	機械設備	基礎ボルト	3. (1)	⑬	9-16	大気接触部の腐食(塗装なし部)(全面腐食)について現状保全の実施状況(点検結果を含む)を説明すること。	11/16

通し番号	事象	No	評価書分類	大分類	小分類	審査ガイド項目	No.	評価書ページ	質問事項	回答終了日
1	耐震	1	本冊/別冊	耐震安全性評価	共通	-	-	-	3/11震災の影響に関する損傷確認機器リストについて、復旧状況を含めて提示すること。	P (NRA)
2	耐震	2	本冊/別冊	耐震安全性評価	共通	(1)	20-1	-	3/11震災の影響に関する下記事項について、具体的に提示すること。 ・配管支持構造物の地震、津波の影響の最新情報 ・基礎ボルトの地震、津波の影響の最新情報(0.3mm以下の腐食となるか) ・コンクリートの地震、津波の影響の最新情報(ひび割れの程度、加熱による特性変化)	P (NRA)
3	耐震	3	別冊	耐震安全性評価	共通	(1)	20-1	-	3/11地震動による地震動(水平、鉛直)と設計地震動(Ss)との大小関係を建屋応答スペクトル図、観測点位置図等を用いて提示すること。	12/14
4	耐震	4	別冊	耐震安全性評価	共通	(1)	20-1	-	現行のJEAG4601に基づく標準的な手法以外の値を適用したケース(設計用減衰定数、地震応答解析手法、等価繰り返し回数)があれば、適用内容とともに提示すること。	12/14
5	耐震	5	別冊	耐震安全性評価	共通	(1)	20-1	-	建設後の耐震補強の実績(実施時期、以下のいずれに該当するかの整理、工事概要(サポートの撤去、移動、追設、容量変更の要点を含む))を提示すること。 イ)基準地震動Ss等に対する耐震補強ケース ロ)配管の減肉評価結果に基づく耐震補強ケース ハ)上記のイ)、ロ)以外の耐震補強ケース	P (NRA)
6	耐震	6	別冊	耐震安全性評価	共通	(1)	20-1	2	高経年化対策上着目すべき経年劣化事象でない事象として、「③現在までの運転経験や使用条件から得られた材料試験データとの比較等により、運転を断続的に行うことを前提とした場合には経年劣化の進展が考えられるが、冷温停止状態が維持されることを前提とした場合には経年劣化の進展が考えられない、または進展傾向が極めて小さいと考えられる経年劣化事象」の区分(耐震安全性評価の対象とし、高経年化対策上着目すべき経年劣化事象として扱うもの)を適用しない理由を提示すること。	P
7	耐震	7	別冊	耐震安全性評価	共通	(1)	20-1	3	既往評価で「○→×」あるいは「○→○→■」を今回評価で「▲」あるいは「△→■」に区分した経年劣化事象があるが、「△→■」の区分(日常劣化管理事象であるが、…発生の可能性がないもの、または小さいもの)を設定しない理由を提示すること。	12/22 P
8	耐震	8	別冊	耐震安全性評価	共通	(1)	20-1	5	安定停止の維持状態で動的機能維持が必要となる機器とその理由、並びに個別機器ごとの動的機能維持評価の記載方針(耐震安全上考慮する必要のある経年劣化事象がある場合とない場合の評価部位等)を提示すること。	P
9	耐震	9	別冊	耐震安全性評価	共通	(1)	20-1	7	表2「安定停止の維持状態での劣化の想定期間」と本冊33頁の表「安定停止の維持状態での劣化の想定期間」の相違点とその理由を提示すること。	P (NRA)
10	耐震	10	別冊	耐震安全性評価	熱交換器	(1)	20-1	3.2-6	原子炉冷却材浄化系再生熱交換器の胴の腐食(全面腐食)に対する評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	P
11	耐震	11	別冊	耐震安全性評価	配管	(1)	20-1	3.5-16	炭素鋼配管の腐食(流れ加速型腐食)に対する以下の含む評価の具体的内容について下記事項を含めて提示すること。 ・評価仕様 ・解析モデル ・評価対象とした系統ごとのライン数、ラインの抽出根拠及び減肉の種別(配管減肉管理に関する技術規格(日本機械学会)との対応に係る説明を含む。) ・評価対象としたラインに係る耐震重要度区分ごとの対象及び評価対象部位(解析モデル図に図示。) ・評価結果	P (NRA)
12	耐震	12	別冊	耐震安全性評価	配管	(1)	20-1	3.5-18	原子炉冷却材浄化系配管(炭素鋼配管)の流れ加速型腐食(FAC)を耐震安全上考慮する必要のある経年劣化事象としていない評価について、その具体的内容を提示すること。	P (NRA)

通し番号	事象	No	評価書分類	大分類	小分類	審査ガイド項目	No.	評価書ページ	質問事項	回答終了日
13	耐震	13	別冊	耐震安全性評価	炉内構造物	(1)	20-1	3.7-8	残留熱除去系配管の疲労割れに対する評価において、伸縮可能な構造で相対変位に追従可能とするベローズの地震時の疲労割れに対する評価を提示すること。	12/22
14	耐震	14	別冊	耐震安全性評価	炉内構造物	(1)	20-1	3.7-14	炉心シュラウドの疲労割れに対する評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	P
15	耐震	15	別冊	耐震安全性評価	炉内構造物	(1)	20-1	3.7-15	上部格子板の靱性低下に対する評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	P (NRA)
16	耐震	16	別冊	耐震安全性評価	基礎ボルト	(1)	20-1	3.14-9	現行耐震設計技術指針地震力に対する基準地震動Ssにより定まる地震力等の増減率(β)の具体的評価内容(地震動の周期特性との関係を含む)を提示すること。	P
17	耐震	17	別冊	耐震安全性評価	基礎ボルト	(1)	20-1	3.14-14	後打ちアンカの評価について、許容荷重とボルトの発生応力及び許容応力の関係を引張荷重とせん断荷重に分けて提示すること。	P
18	耐震	18	別冊	耐震安全性評価	基礎ボルト	(1)	20-1	3.14-14	後打ちメカニカルアンカの評価について、設計許容荷重の設定根拠及び減肉後の応力評価の算定根拠(プラント設計時の耐震条件含む)を提示すること。	P
19	耐震	19	別冊	耐震安全性評価	基礎ボルト	(1)	20-1	3.14-15,17,19,28	表3.14-5,7,9,13の耐震重要度BおよびCの機器について、詳細安全性評価対象の絞り込みの手順を提示すること	P
20	耐震	20	別冊	耐震安全性評価	基礎ボルト	(1)	20-1	3.14-16,18	表3.14-6の低圧炉心スプレイ系ポンプ、表3.14-8の残留熱除去冷却系熱交換器の機器付基礎ボルトの腐食に対する評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	P
21	耐震	21	別冊	耐震安全性評価	基礎ボルト	(1)	20-1	3.14-20	表3.14-10の中央制御室サージタンク及びコントロール建屋電気品室サージタンクの機器付基礎ボルトの腐食に対する評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	P
22	耐震	22	別冊	耐震安全性評価	基礎ボルト	(1)	20-1	3.14-26	表3.14-12(3/3)の非常用ディーゼル発電機(A)室給気フィルタユニット及び同(B)室給気フィルタユニットの機器付基礎ボルトの腐食に対する評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	P
23	耐震	23	別冊	容器	容器	(1)	20-1	3.4-20,21	原子炉圧力容器胴の中性子照射脆化に対する冷温停止状態評価と運転状態評価の差異(耐圧試験時と炉心臨界時の差異含む)、最低温度要求(55℃、-1℃)の内容、圧力-温度制限曲線と飽和圧力温度曲線に対する線形破壊力学に基づく評価(破壊靱性値、応力拡大係数値等)を提示すること。	